

社会的孤立が生んだ8050問題 ～地域社会から家族の孤立を防ぐために～

NPO法人楽の会リーラ
事務局長

(03-5944-5730)

info@rakukai.com

地域家族会 東京都北区

不登校・ひきこもりの自主家族懇談会「赤羽会」

副会長

市川乙允

平成31年3月21日

支え合いの精神に基づいた 広域家族会としての取り組み (東京都を中心とした首都圏)

1. 2001年ひきこもりの親の会、KHJ東京支部(楽の会)としてスタートし、その後ひきこもり本人支援を含む総合的活動をNPO法人楽の会リーラとして展開してきた。
2. 孤立しがちなひきこもり家族が、つながりやすい家族会活動に重点を置き、月例会、電話相談、学習会、家族のグループ相談会、カウンセリング、居場所(カフェ葵鳥)等の事業を行っている。
3. 数年前からは、地域家族会の立ち上げ支援、運営支援を都内全域に於いて取り組み、立ち上げられた12か所(18年10月現在)の家族会同士によるネットワーク「地域家族会連絡協議会」が2018年9月に発足した。楽の会リーラは当連絡協議会の事務局として、各地域家族会の活動について種々の支援を行っている。

NPO法人楽の会リーラ支援活動

親の会(家族会)例会
カウンセリング、グループ相談会
電話相談等の相談

訪問相談支援
親の学習会

居場所通所

(カフェ葵鳥)

社会参加

ひきこもり

居場所支援

就労体験等支援

状態

機関紙発刊、ホームページ関連
セミナー、講座等開催

支援員(ピアサポーター)養成

ボランティア、就労体験
フェアトレードコーヒー
関連事業(コミュニティーカフェ)

回復に向けての応援体制

当事者

電話相談

手紙・電話
訪問・居場所
の出前

居場所

ボランティア
就労体験

生き方選択
(就活等)

社会性

ボランティア
活動

行動変化

グループ
相談会

ひきこも
り状態

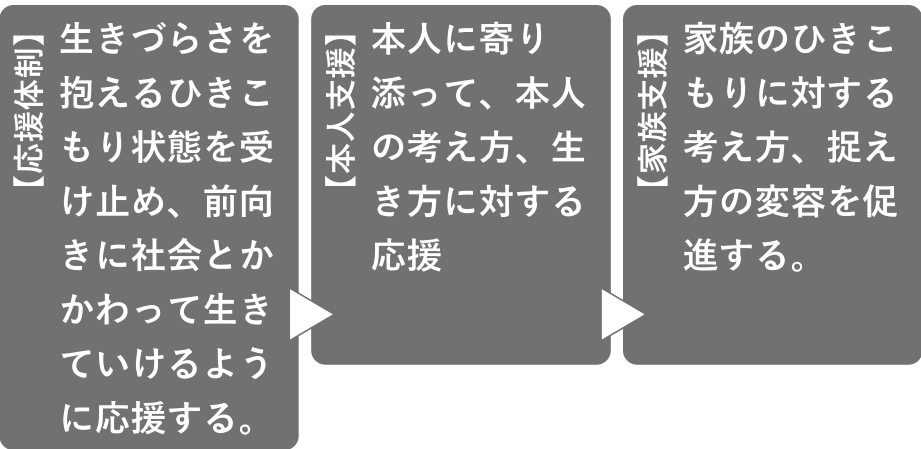
学習会

カウンセ
リング

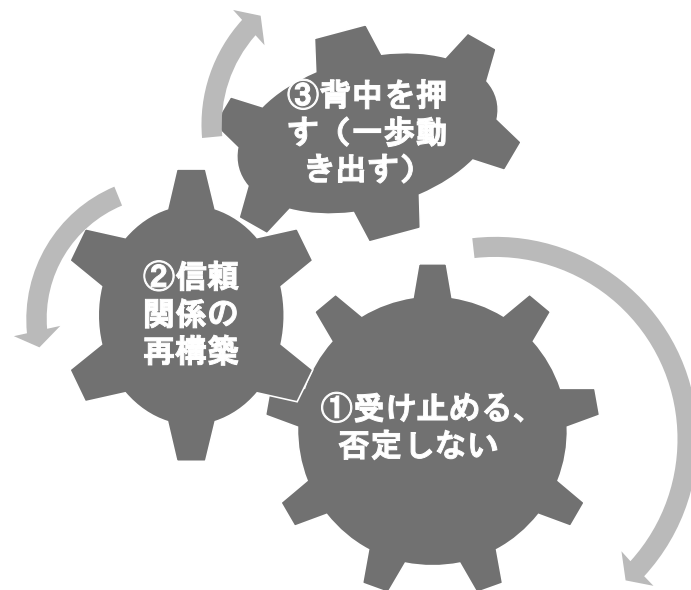
家族

月例会

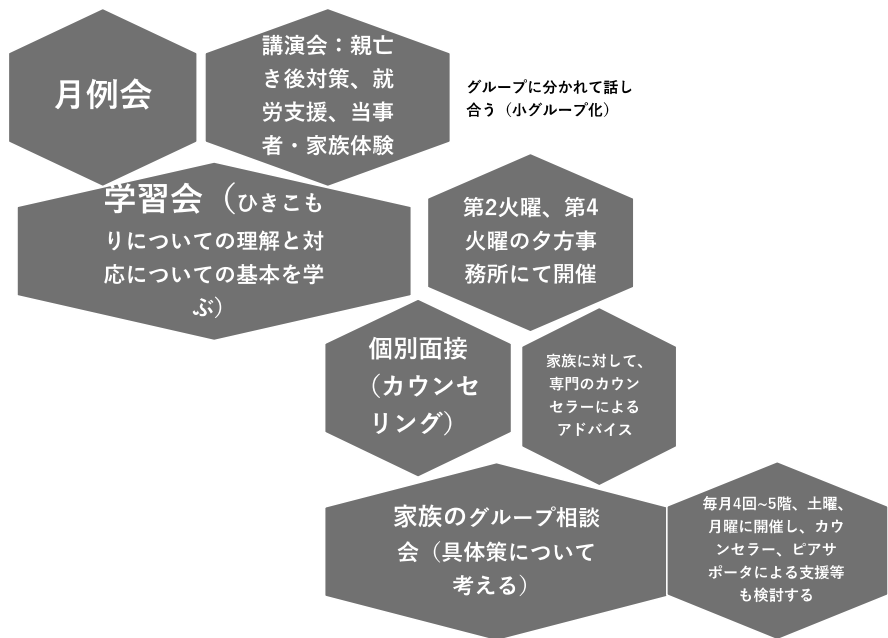
「支え合いの精神」を基本とした楽の 会リーラ応援体制



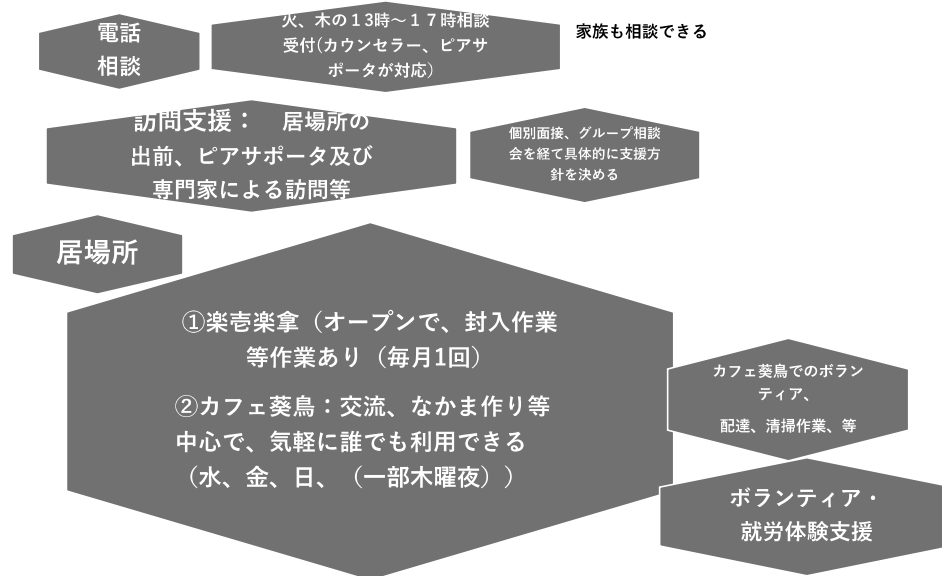
ひきこもりからの回復にむけて (家族ができること)



【家族支援】



【当事者支援】



孤立防止のための家族会としての取り組み

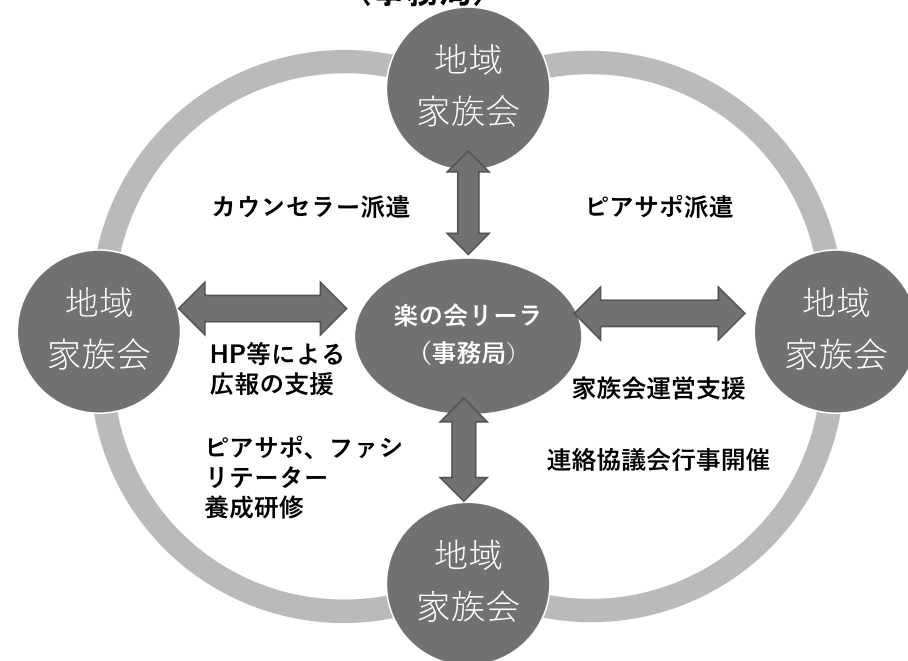
「楽の会リーラ電話相談」

- ・「年齢制限はありますか？」 最初の一言で最近目立つ利用者からの言葉。
- ・ひきこもり本人からの相談電話が増えている。「親が自分の事分かってくれない」、親の介護が必要になり、負担が増えてしまった、公的支援機関へ相談しても「本人が相談機関へ来なければ相談を受けられない」、どこか他人ごとで、親身になって聴いてくれない、たらいまわしされる、地域の人目が気になって昼間外出できない、電車に乗れないので、自転車、徒歩でいける地域での居場所が欲しい、等
- ・親、兄弟姉妹からの電話相談では、家庭内暴力で近所の人に迷惑をかけているのではと心配、本人が支援機関、医療機関へ行ってくれない、本人が働いていないので、地域で恥ずかしくて孤立しがち、親の悩みを聞いてくれる人がいない、支援機関へ相談したくても、地域では知り合いがいるのではと思えば足が遠のく、親亡き後の本人の生活が心配

「安心して話せる家族会」：まずは繋がることから、月例会、親の学習会、グループ相談会等

「ひきこもり本人が安心していける居場所」：仲間づくりとしてのカフェ菜鳥

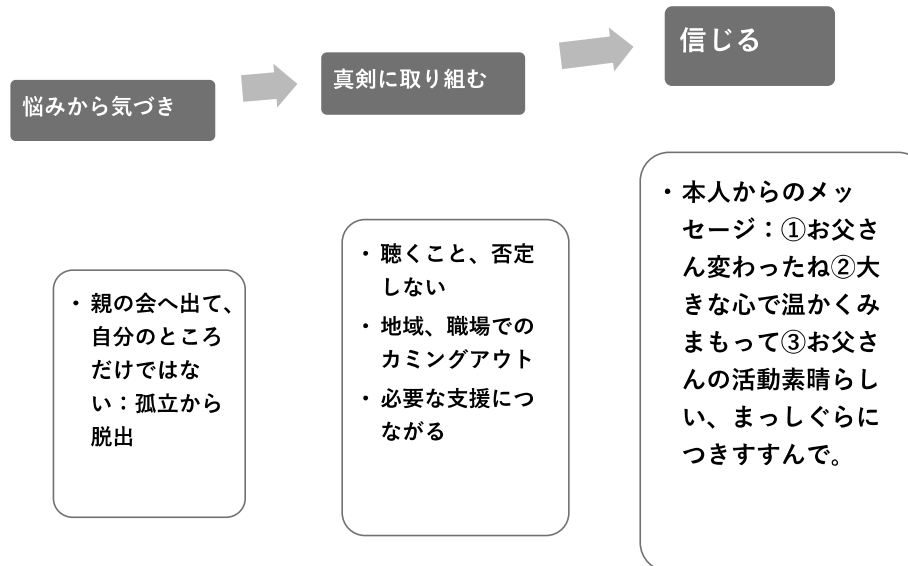
住み慣れた地域における「地域家族会連絡協議会」(事務局)



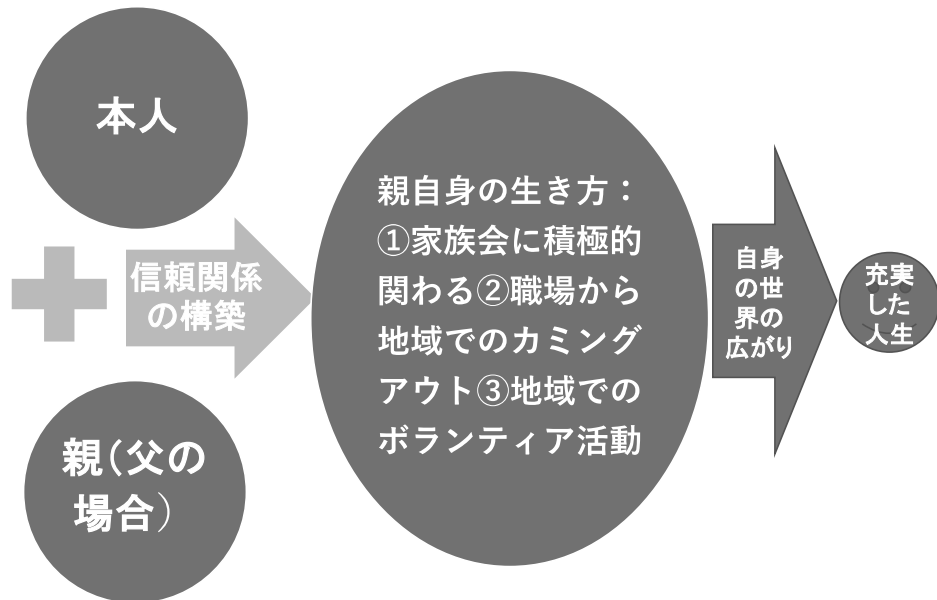
支え合いの精神に基づいた地域家族会「赤羽会」の東京都北区における取り組み

1. ひきこもりの親の立場からの報告
2. 地域家族会「赤羽会」と地域資源との連携
3. 課題：地域包括支援センター、民生委員等との連携

親と本人との信頼関係の構築(父親の立場から)



ひきこもりの親としての関わりから、 ～親の人生の変化へ～



地元の神社「上田端八幡神社」



町内会で毎朝ラジオ体操をしています。

田端銀座商店街



町内にある商店街です意外と便利です

所感

・良かったこと：

- 1) 家族の絆を強めた
- 2) 自分の人生を見つめる（見直し）
- 3) パートナーとしての夫婦関係を構築
- 4) ボランティアの世界、地域社会との関わりを持つきっかけになった。

* 現在地域でのボランティア活動：赤羽会副会長、地区町会副会長、谷田橋サロンボランティア団体（りゅうのすけん茶論）代表、市民後見北ネット会員、等

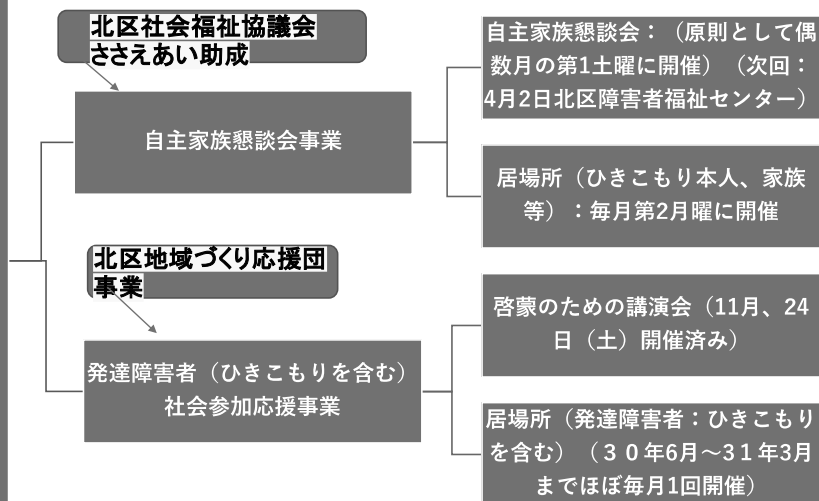
・課題

本人（長女）家族との関わり方

本人の長女(孫)の大学入学、そして社会人へ

地域家族会としての地域での取り組み (赤羽会の平成30年度活動)

赤羽会事業(活動)



「赤羽会」の定例家族懇談会

- ①主としてひきこもり（発達障害、不登校を含む）の家族が2カ月に1回集まり、問題解決型の懇談会を開催。
 - ②毎回ゲストとして、カウンセラー、臨床心理士、ピアサポーター、時に精神科医を招聘し、アドバイスをもらう。
 - ③生活困窮者自立支援機関相談員の方、（又は保健師の方：打診中）も同席して頂き、必要に応じてその場でつなぐ。
- * 訪問、就労準備支援、就労支援等が必要な場合

赤羽会居場所（家族、本人参加可）

- ・当事者の方も、親御さんも、交流（ゲーム等）
(地域の方との交流による理解促進)
- ・毎月第2月曜に開催：3日11日（月）、13時～16時
- ・場 所：縁じょい田端駅通り商店街「谷田橋さろん」
- ・北区社会福祉協議会と地元商店街との共同開設のふれあいサロン：毎週月、水、金の10時～16時オープン
- ・東京都北区田端2-1-15りべる田端1階
JR田端駅徒歩8分程度

谷田橋サロン



赤羽会と地域資源との連携（例）

ひきこもり本人（40代）

- ・地域家族会（赤羽会）家族懇談会で、家族と暮らしとしごと相談センターつなぐ
- ・生活困窮者自立支援機関（北区）：本人支援について関係者対策会議：家族（本人含む場合あり）、赤羽会（ピササポ）、北区保健師センター相談員*家族が入らないこともある
- ・北区健康支援センター（背後に潜む精神疾患などについての支援）：保健師訪問も検討する

本人就労準備支援講座へ

- ・暮らしとしごと相談センター（訪問又はセンターにて本人誘導、支援）
- ・赤羽会（家族支援：親としての本人との接し方等アドバイス）

本人就労へ

- ・暮らしとしごとの相談センター（就労へ本人を導く）
- ・赤羽会（就労後の家族支援：家族として本人との「かわり方」など支援）

都内某区での事例（1）

地域家族会
定例会毎月
1回開催
（保健師の
出席あり）
地域社協の
協力で会場
無料使用



地域の生
活困窮自
立支援相
談員によ
る説明会



家族のご子
息が生活困
窮とつなが
り、就労を
実現

都内某区での事例（2）

地域家族会
定例会毎月
1回開催
民生委員の
協力あり
地域社協の
協力で会場
無料使用



地域の社
協の有償
ボラン
ティアの
機会をも
らう



社協の方の
フォロー
アップを
いただきボ
ランティア
登録し、主
として高齢
者の生活援
助の仕事を
する

地域家族会と地域資源との連携

課題：地域包括支援センター、民生委員等との連携

対策案：孤立しがちなひきこもり家族の発掘と地域家族会とのつながりの促進

①ケアマネジャー等の介護関係者への、説明会等によるひきこもりの理解促進

②民生委員のかたのグループでの、説明会等による理解促進

③広く一般の皆さまへの、地域でのひきこもりの啓発活動と行政等による実態調査

—完—